

ニューノーマル時代の区民ホール運営

港区立高輪区民センター 所長 奈雲 美徳

1. 新型コロナウイルスがホール運営に及ぼした影響

高輪区民センター 区民ホールは、定員が224名(改修工事前、250名)で中規模のシューボックス型のホールだ。ホール内の残響効果も定評あり、絢帳はなく音楽専用ホールとして愛されている。舞台上の広さは、66㎡で室内楽・声楽曲の演奏に相性が良い。

ピアノは、YAMAHA CF3Sを設置しており、ピアニストからは、低音部の深みある響きと高音部の煌びやかな音色に人気がある。

コロナ禍により、区民センターでも利用上の制限が設けられ、区民ホール等でのイベントやコンサート等の多くの事業が中止・延期になるなど、施設運営にあたり大きな影響を受け、開催中止と判断しダメージを受けたコンサートの中には、令和2年3月31日(火) 開催予定であった「フランソワ・シャプラン～世界的に活躍するピアニスト～」がある。

港区の指示により開催直前の令和2年3月28(土) から臨時休館として対応していくことになった。演奏者もフランスからの来日予定を急遽、キャンセルし開催中止となった。

高輪区民センター共催として約1年間、開催に向けて定期的に打合せをフランス現地プロデューサーとスカイプで進めていたが実らず、大変残念な記憶が今でも鮮明だ。

第一回目の緊急事態宣言期間に伴い、臨時休館が令和2年5月31日(日)までの延長となり、今後の施設運営にいまだかつてない不安を感じた。

令和2年6月1日(月)からは段階的な利用再開となり、港区から以下の利用制限指示が出された。

- ◆利用定員の制限(定員の50%、100人を上限)、合唱・演劇・調理等の利用目的は不可
- ◆利用者の緊急連絡先の確認
- ◆施設利用中のマスクの着用
- ◆こまめな手洗い、手指消毒
- ◆健康状態の確認(37.5度以上の発熱、風邪の症状、息苦しさ、だるさなどの有無)



これにより再度、フランソワ・シャプランの延期開催の再交渉を進めたが、実現とならず苦い経験となった。

上記の利用制限の中で、100人を上限とした各利用団体や行政関連のイベント・コンサート開催は、ほとんどが中止・延期となり、稼働率も低下していく中での利用状況は、ハンドベルやピアノ演奏等の

練習目的の団体利用が主であった。

この時のホール運営の取組として、最前列と2列すべてを座席不可とし、3列以降も座席間を空けて座っていただくように「使用不可」の張り紙を各席に設置した。

令和2年8月1日(土)から区有施設での合唱・演劇活動の利用を(条件有)再開し、以下の条件が港区から設けられた。

- ◆外気を取り入れる換気を行ってください。
- ◆咳エチケット・手指衛生を徹底してください(休憩中も含みます)。
- ◆マスクなしの場合2メートル以上、マスクありの場合1メートル以上、人と人の距離を確保してください。
- ◆人同士が向かい合う配列や、お互いが向き合って声を発する場面を避けてください。
- ◆楽譜や台本は1人1枚としてください。
- ◆飲食物は各自が持参し、共有することを避けてください。
- ◆連続した活動は30分以内とし、5分以上の換気を行ってください。

この利用制限を基に、独自に当センターでも「区民ホール利用時の留意事項・チェックシート」を作成し、利用団体様にシート内容を確認し署名をいただくよう取り組みを行った。

ホール内の消毒作業については、清掃委託業者と連携し、状況に応じて区民センター職員もサポートを行い、利用団体へ安心して貸出提供できる体制に取り組んだ。

【実施例】※一部抜粋

●舞台上における出演者の人数制限について

ここに✓を入れる↓

固定位置の場合、最大16名以下(弦楽器のアンサンブルなど)	
動きを伴う(発声しないもの)場合、最大8名以下(ダンスなど)	
身体の接触を伴うものは利用不可(社交ダンスなど)	
合唱(声楽全般)の場合、最大10名(伴奏者は含まない)	
演劇 最大8名(但し人同士が向かい合う配列や、お互い向き合って声を発する場面は避けること)	

※いずれの場合も、出演者間のソーシャルディスタンスを確保すること。

※観客を伴う本番のイベント等は、演出内容により個別に人数制限等を指示いたします。

独自の取り組み後も本番のイベント等の利用数が伸びず、この停滞するホール利用率を打開するため、区民センター主催で、港区観光大使の「REAL VOX」とのスペシャルライブを開催した。

演者は皆、フェイスシールドを着用して、ステージ演出を工夫しながらパフォーマンスを繰り広げた。私自身も自作の楽曲提供、それにピアノ伴奏を行い果敢にステージを盛り上げた。

参加者の皆様からは、久しぶりの生演奏を聴け、コロナ禍の閉塞感を乗り越えた感じで一杯になり、勇気を貰えた等の感想をいただいた。



施設運営上の制限とともに、新型コロナウイルス感染症拡大防止策を講じながら、事業運営を工夫しながら乗り切り、現在では利用定員の制限も解除され、コロナ禍前に戻った運営となっている。

2. 変化・変容していった利用者意識

コロナ禍の影響を受け、令和 2 年度のセンター主催の一大イベントである「輪い輪いまつり」をやむを得ず中止とし、急遽代替え企画とした「サークル活動発表会」を区民ホールでの無観客開催とし、令和 2 年 10 月 17 日(土)及び 10 月 18 日(日)の二日間、無事にイベントを終えることができた。

無観客開催のため活動発表を撮影し、動画をインターネット配信することにチャレンジした。

参加団体は、音楽部会と舞台部会併せて 12 団体の参加であった。肖像権・著作権・著作隣接権に抵触しない団体の動画を「港区高輪区民センター YouTube チャンネル」にアーカイブ配信した。

はじめての試みとなる活動発表の動画配信であったが、予想以上に大好評をいただき次回も実施して欲しい旨のご意見を多数いただいた。例えば、出演団体の音楽サークル（歌・演奏）様からは、遠方のお住まいの息子様が、演奏動画を視聴し「母の元気な様子を確認できて安心した！」との連絡があったことを嬉しそうにセンター職員にお話しされた。

また、視聴された方々から「私たちも動画を作成し YouTube にアップしたい！どのような作業手順になるのか？」や「著作権についてレクチャーして欲しい！」などのお問合せの対応が増えた。

動画配信を媒体にした、新たなコミュニケーションが展開できる可能性が加わり、新規メンバーの加入が停滞している悩みを抱えていた団体にとっては、動画による活動紹介はタイムリーな広報となり励みとなったようだ。

【港区高輪区民センター YouTube チャンネル】

YouTube チャンネルを開設。(2020/09/12 に登録)し、これまで 97 本の動画を発信してきた。動画視聴によりイベントの様子をリアルに伝え、イベントへの集客に繋げている。



↑QR コード
はこちら



3. 情報発信型のホール運営マネジメント

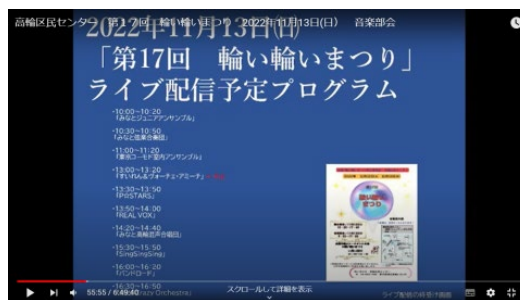
コロナ禍が落ち着き、約2年9ヶ月ぶりに「第17回輪い輪いまつり」を令和4年11月12日(土)・13日(日)の二日間、区民ホールにて開催した。参加サークル団体は、舞台部会・音楽部会併せて22団体の発表となり、肖像権・著作権・著作権隣接権をクリアした14団体についてYouTube上でライブ配信を2日間行った。

会場にお越しになられない方にも楽しめるよう取り組み、初めてのライブ配信は、音質も良かったとのこと好評であった。



また、12日(土)には「太鼓の達人」トーナメント大会も行った。大スクリーンに投影し、ホールメインスピーカーからの大音響でのプレイは迫力満点であり、参加者の皆さま大満足でありました。「eスポーツ」による地域活性化を目的にした初の試みにチャレンジし、8組の児童生徒たち等の参加となり会場が盛り上がった。小学5年生女子が優勝し、次回の開催が楽しみとのことであった。

◀太鼓の達人 Nintendo Switch ば〜じょん！
©Bandai Namco Entertainment Inc.



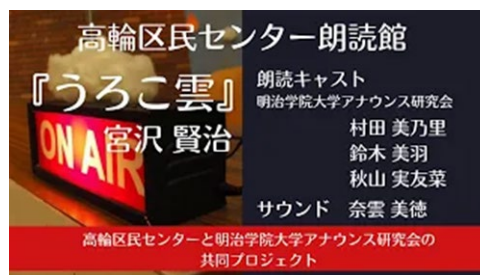
4. コロナ禍で経験した地域ネットワークづくりの可能性 ～サウンドコンテンツ制作～

コロナ禍でセンター主催・共催イベント等が開催できない期間、この閉塞感を打破するにはと模索した結果、「インターネット上で、共同制作により何かイベントを催すことはできないか?」と思いついたのが「高輪区民センター朗読館」であった。明治学院大学アナウンス研究会と対面することなく、メールで打合せ及び収録した音声データの確認等を何度も行い、動画作成ツールを使用し仕上げていった。高輪区民センターオリジナルコンテンツ発信となり、高輪地区連携の一環としても成果を上げることができた。※地域活性化の取り組み：<区内大学とのコラボレーション>

■明治学院大学アナウンス研究会とのコロナ禍における地域交流の取り組み（音声コンテンツの共同企画）

☆高輪区民センター朗読館 宮沢 賢治 『うろこ雲』
高輪区民センターと明治学院大学アナウンス研究会との共同プロジェクトです。

<https://www.youtube.com/watch?v=1Kf0EiTfG2E>



▲画像提供：明治学院大学アナウンス研究会